

「第2回アドバイザー会議」における質問内容及び回答内容

調書番号: 7 事業名: 海外展示会出展支援事業費

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
<p>五味アドバイザー</p>	<p>補助件数が10件を超えているにもかかわらず、予算内で収まっているのは、交付額が60万を超えていないものが多いのか。</p> <p>終期は設定しているのか。</p> <p>ある程度期間が経ったら、事業の成果を検証する必要があるのではないか。</p> <p>資料で平成27年度の出展に対して、1年以内の成約見込み件数が記載があるが、現在で何件成約しているのか。前の年はどうか。</p> <p>その後は、1年後しか追いかけていないのか。</p> <p>継続して出展している企業もあるのか。その場合の成果はどうか。</p>	<p>課長・内藤 裕利</p>	<p>その通り。総額で120万に行かないものも多い。</p> <p>していない。</p> <p>今回の外部評価が検証の場だと思っている。平成25年度に検証して、補助対象を追加した。その後成果が出ているので当分はこのまま事業を実施したい。今後継続して実施する中で、何年後かに事業を振り返り検証する必要がある。</p> <p>成約件数は、まだ調査していない。前年は16件が成約している。</p> <p>1年以上過ぎてしまうと、展示会出展が直接の成果だと言いづらいため1年後までの調査対象としている。</p> <p>特にタイでは、やまなし産業支援機構とタイ下請振興協会との間で連携協定を結んでいるため、その後押しもあり、展示会出展の成果が出てきている。</p>

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
諸平アドバイザー	<p>事業の目的が海外取引の拡大に繋げることであるならば、成果指標が商談件数だとなじまない。成果指標は、成立件数や成立金額など客観的にわかる数字にする方がいい。(意見)</p> <p>継続して出展する企業が出てくると、採択基準の見直しが必要ではないかと考えるがどうか。</p> <p>まさに今説明のあったことが見直しにあたるので、見直しの必要性が「なし」ではない。</p>	課長・内藤 裕利	<p>これまで、予算の枠内に申請件数が収まっていたため、申請のあった企業に補助金を交付してきたが、昨年度、今年度予算いっぱいの申請があるので、今後は募集期間を設定し、一定の審査基準のもと交付決定する必要はある。</p> <p>製造業の場合は、何回も継続して出展することで認知され成約に繋がることがあるので、複数年の支援は必要だと思うが、ただ、5年も10年も同じ企業に支援することは補助金ありきでの出展になりかねないので、一定の制約を設けて自立して頂く必要はある。それも含めて募集のあり方、継続何回など検討していく。</p>
小口アドバイザー	<p>商談はかなりの件数だが、企業ごとに差があるのではないかと。ほとんど引き合いがない企業もあるのか。</p> <p>また、そのような企業に対して、企業としての反省はもちろんあると思うけど、産業支援機構としての分析、フォローはどうしているのか。</p>	課長・内藤 裕利	<p>企業ごとに差はあり、引き合いがない企業も1, 2社ある。</p> <p>昨年度初めて出展して企業は、やはり商談が少ない傾向があるので、継続して出展することによって、商談件数も増えることが期待できる。また、そもそもその企業が持っている技術、製品、商品が出展した展示会(市場)にマッチしていない可能性も否定できないので、企業を含め、支援機構とも振り返りをして、その市場に合っていないようであれば、違う場所を案内するなどの指導を行っていく。</p>

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
小口アドバイザー	<p>是非それをやって頂きたい。何年か継続して出展する中で、企業の特徴が出てくると思う。展示会によっても違うし、製品の種類によっても違う、展示の仕方によっても違う。そういう事を含めて指導をすることと併せての補助金ではないかと思う。半額補助ということは、企業は半額負担している。展示会に出展しても全く成果が出ないのでは、よくない。申請があった企業にすべて交付するのではなく、枠が余っていたとしても、成果が見込めない企業には遠慮して頂くことも必要。</p> <p>補助金事業創設にあたり、どのような企業を対象に、どのような展示会に出展するかというようなある程度見通しはなかったのか。</p> <p>この研究会は、今も継続しているのか。</p> <p>研究会ができていいのはいいが、補助金に関する情報が研究会だけに留まることのないよう、幅広く周知して募集期間を決めてやっていくのがいいのではないか。</p>	課長・内藤 裕利	<p>補助金創設当時は、県内製造業の有望な進出地域として、中国、タイ、ベトナムをターゲットに研究会を立ち上げたので、その研究会参加企業が出展するだろうと想定していたと思う。</p> <p>形は違うが、中国は販路開拓研究会、タイは連携協定の関係でグループができています。ベトナムに関しては、今は活動していません。</p>